

西の博多・東の中津

中津市長 奥塚 正典

「西の博多 東の中津」と言われたそうです。何故か。江戸時代は海運が盛ん、中津藩のみならず天領日田の荷駄を江戸や大阪へ中津から運んだのです。当時の博多の町の人口とも今のような差はなく、中津藩が大分県において最大の10万石であったことを考えると実力もあった証でしょう。ちょっと驚きですね。

時代は変わって中津港は今も重要港湾の一つです。東九州では大分港、北九州港の中間に位置し、瀬戸内や関西に近い東の玄関港の一つとして存在価値をもっと高めていくことが期待されます。意外と知られていませんが、中津港からわずか3つの信号で全国的高速道路網につながる便利さです。また、昨年も2回大型クルーズ客船が入港し多くの乗客に中津の観光を楽しんでいただきました。コンテナを運ぶRORO船やフェリーの運航に向けた中津港の売込みもさらに強化が必要です。

一方、JR日豊本線の中津駅の役割も重要です。多くの乗降客が利用し大分県の北の玄関口です。早くから高架化し本州にも近く新幹線利用にも便利な立地です。東九州新幹線も議論されシンポジウムが中津で開催されました。

こんな中津の強みを考えると、中津日田道路が完成すれば九州の西と東がつながり、北部九州の循環型高速道路網が中津を一段と拠点化します。モノづくり産業が栄える工業都市、大消費地福岡県に近い商業観光都市、そして豊かな自然と歴史のある環境文化都市として、陸路・海路を活用し、中津の潜在力や定住力を大きく活かしていきたいものです。



八面山から望む中津市

北部九州を鳥瞰し、大都市博多とは一味違った魅力あふれる現代版『東の中津』を頭の中で描きながら、足元では市民生活をしっかり見つめて一歩一歩着実に前に進んでまいります。